

私だから伝えられること

橋本市立橋本中央中学校3年B組
堀内 杏海

No. 1

私は多分、他の人より多く病院にお世話になっ
ていている。私はまだ幼い頃、小児癌と心臓
病が発見され、手術を五回重ねた。また、治
療に伴い、入院生活も二年程送っていた。治
療を終えてから十年以上経つ今でも、年に一
度、大きな病院での検査が必要だ。検査では
、レントゲン、採血、心エコー、心電図など
を受けるため、時間とお金がかかってしま
う。私は、病院に行く度に子どもながらにお
金の心配をしていた。窓口でお金を払う母を
見ながら、なんともいえない罪悪感を抱いて
いた。

今回、税の作文を書くにあたって、医療費
についての疑問が浮かんた。手術や検診にか
かる費用は自己負担なのか。インターネット
で調べてみたところ、私の病気の手術や治療
は県や国が代わりに負担してくれているらし
い。では、母が毎回病院で払っていたお金は
一体何だったのだろうか。母に尋ねてみると、
「あれは一旦私が支払っているだけで、後で

No. 2

県が支払ってくれているのよ。」
と教えてくれた。私は、検診は大阪府で受け
ているけれど住んでいる所は和歌山県だから
、検診にかかる費用は和歌山県が出してくれ
ているそうだ。和歌山県の中でも私の住む橋
本市では、高校生以下の医療費を全額負担し
てくれる「こども医療費助成制度」という制
度があり、市内の子ども全般を対象としてい
る。また、小児癌の治療は長期間にわたり経
済的負担も大きいことから、国も公費の一部
で医療費を負担してくれている。公費とは、
私たち国民の税金で集めたお金ということだ
から、私の小児癌治療にかかる費用は国民が
払ってくれているともいえる。この制度は小
児慢性特定疾患治療研究事業」といい、小児
癌患者にとって大きな助けとなっている。国
民の税金で患者の負担が減る、ということ
は、国民が税を通して国民を手助けしている
といふことではないだろうか。税を納める側
からすれば、自分で稼いだお金の一部を取ら
れる

No. 3

のだから、あまり良い気はしないだろう。け
れど、自分が納めた税で誰かの治療を手助
けしている、そう思えば納税はとても誇らしい
ことだ。もちろん、税の使い道は医療だけで
はない。教育の振興や福祉の充実、公共施設
の整備などにも利用されていて、私たち国民
がより良い暮らしを送るための手段となっ
ている。

仕事をしていない私たち中学生にとって、
税は少し遠く感じるものだと思う。それでも
私たちは日本国民であり、気づかないところ
で税と深く関わっている。これからも私たち
国民は税を納めなければならない。これから
も私たち患者は検査を受けなければならない
。こうして国民が国民を手助けし、共生する
社会を、私たちは税を通して作っている。こ
の先私が働くようになって、税を受ける側か
ら納める側になったら、誇りを持って税を納
めたいと思う。